

## オロックス那覇 宿泊約款

### 第1条（適用範囲）

1. 当ホテルが宿泊客との間で締結する宿泊契約及びこれに関連する契約は、この約款の定めるところによるものとし、この約款に定めのない事項については、法令または一般に確立された慣習によるものとし、
2. 当ホテルが法令及び慣習に反しない範囲で特約に応じた時は、前項の規定に関わらず、その特約が優先するものとし、

### 第2条（宿泊契約の申込み）

1. 当ホテルに宿泊契約の申込みをしようとする者は、次の事項を当ホテルに申し出て頂きます。
  - (1) 宿泊者名
  - (2) 宿泊日及び到着予定時刻
  - (3) 宿泊当日連絡が取れる連絡先
  - (4) その他、当ホテルが必要と認める事項
2. 宿泊客が、宿泊中に前項第2号の宿泊日を超えて宿泊の継続を申し入れた場合、当ホテルは、その申し出がなされた時点で新たな宿泊契約の申込みがあったものとして処理します。

### 第3条（宿泊契約の成立等）

1. 宿泊契約は、当ホテルが前条の申込みを承諾した時に成立するものとし、但し、当ホテルが承諾しなかった事を証明した時は、この限りではありません。
2. 前項の規定により宿泊契約が成立した時は、宿泊期間（3日を超えるときは3日間）の基本宿泊料を限度として当ホテルが定める申込金を、当ホテルが指定する日までに、お支払い頂きます。
3. 申込金は、まず、宿泊客が最終的に支払うべき宿泊料金に充当し、第6条および第18条の規定を適用する事態が生じたときは、違約金について賠償金の順序で充当し、残金があれば、第12条の規定による料金の支払いの際に返還します。
4. 第2項の申込金を同項の規定により当ホテルが指定した日までにお支払い頂けない場合は、宿泊契約はその効力を失うものとし、但し、申込金の支払期日を指定するに当たり、当ホテルがその旨を宿泊客に告知した場合に限ります。

### 第4条（申込金の支払いを要しない事とする特約）

1. 前条第2項の規定にかかわらず、当ホテルは、契約の成立後同項の申込金の支払いを要しない事とする特約に応じることがあります。
2. 宿泊契約の申込みを承諾するに当たり、当ホテルが前条第2項の申込金の支払いを求めなかった場合及び当該申込金の支払期日を指定しなかった場合は、前項の特約に応じたものとして取扱います。

### 第5条（宿泊契約締結の拒否）

1. 当ホテルは、次に掲げる場合において、宿泊契約の締結に応じないことがあります。
  - (1) 宿泊の申込みが、この約款によらないとき。
  - (2) 満室により客室の余裕がないとき。
  - (3) 宿泊しようとする者が、宿泊に関し、法令の規定、公の秩序若しくは善良の風俗に反する行為をする恐れがあると認められるとき。
  - (4) 宿泊しようとする者が、伝染病であると明らかに認められるとき。
  - (5) 宿泊に関し合理的な範囲を超える負担を求められたとき。
  - (6) 天災、施設の故障、その他やむを得ない事由により宿泊させる事ができないとき。
  - (7) 宿泊しようとする者が、泥酔等により他の宿泊客に迷惑を及ぼす恐れがあるとき。他の宿泊者に著しく迷惑を及ぼす言動があるとき。
  - (8) 宿泊しようとする者が、次のイからハに該当すると認められるとき。
    - イ 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第2条第2号に規定する暴力団（以下「暴力団」という。）、同条第2条第6号に規定する暴力団員（以下「暴力団員」という。）、暴力団準構成員又は暴力団関係者とその他の反社会的勢力

- ロ 暴力団又は暴力団員が事業活動を支配する法人その他の団体であるとき
  - ハ 法人でその役員の中に暴力団員に該当する者が在籍しているとき
- (9) 宿泊しようとする者が、施設もしくは施設職員に対し、暴力、脅迫、恐喝、威圧的な不当要求を行い、あるいは、合理的範囲を超える負担を要求したとき、又はかつて同様な行為を行ったと認められるとき。

#### 第6条（宿泊客の契約解除権）

1. 宿泊客は、当ホテルに申し出て、宿泊契約を解除することができます。
2. 当ホテルは、宿泊客がその責めに帰すべき事由により宿泊契約の全部または一部を解除した場合（第3条第2項の規定により当ホテルが申込金の支払期日を指定してその支払を求めた場合であつて、その支払いより前に宿泊客が宿泊契約を解除したときを除きます。）は、別表第2に掲げるところにより、違約金を申し受けます。ただし、当ホテルが第4条第1項の特約に応じた場合にあっては、その特約に応じるにあたって、宿泊客が宿泊契約を解除したときの違約金支払義務について、当ホテルが宿泊客に告知したときに限ります。
3. 当ホテルは、宿泊客が連絡をしない又はとれないで宿泊日当日 22時になっても到着しない時は、その宿泊契約は宿泊客により解除されたものとみなし処理することがあります。

#### 第7条（当ホテルの契約解除権）

1. 当ホテルは、次に掲げる場合においては、宿泊契約を解除することがあります。
  - (1) 宿泊客が宿泊に関し、法令の規定、公の秩序若しくは善良の風俗に反する行為をするおそれがあると認められるとき、または同行為をしたと認められるとき。
  - (2) 宿泊客が伝染病患者であると明らかに認められたとき。
  - (3) 宿泊に関し、合理的な範囲を超える負担を求められたとき。
  - (4) 天災等不可抗力に起因する事由により宿泊させることができないとき。
  - (5) 宿泊しようとする者が、泥酔等により他の宿泊客に迷惑を及ぼすおそれのあるとき。他の宿泊客に著しく迷惑を及ぼす言動があるとき。
  - (6) 寝室での寝たばこ、消防用設備等に対するいたずら、その他当ホテルが定める利用規定の禁止事項（火災予防上必要なものに限る。）に従わないとき。
  - (7) 宿泊しようとする者が、暴力団、暴力団員、暴力関係団体（法人を含む）又はその関係者、その他反社会勢力（以下「暴力団等」という。）であるとき。
  - (8) 宿泊しようとする者が、暴力団等が事業活動を支配する若しくは役員（主要な幹部を含む）を務める法人その他団体又はその関係者であるとき。
  - (9) 宿泊しようとする者が、施設若しくは施設職員に対し、暴力、脅迫、恐喝、威圧的な不当要求を行い、あるいは、合理的範囲を超える負担を要求したとき、又はかつて同様な行為を行ったと認められるとき。
2. 当ホテルが前項の規定に基づいて宿泊契約を解除した時は、宿泊客が未だ提供を受けていない宿泊サービス等の料金はいただきません。

#### 第8条（宿泊の登録）

1. 宿泊客は、宿泊日当日、当ホテルのフロントにおいて、次の事項を登録していただきます。
  - (1) 宿泊客の氏名、年齢、性別、住所および職業
  - (2) 外国人にあつては、国籍、旅券番号、入国地および入国年月日
  - (3) 出発日および出発予定時刻
  - (4) その他当ホテルが必要と認める事項
2. 宿泊客が第12条の料金の支払いを旅行小切手、宿泊券、クレジットカード等通貨に代わり得る方法により行おうとする時は、予め前項の登録時にそれらを提示して頂きます。

#### 第9条（客室の使用時間）

1. 宿泊客が当ホテルの客室を使用できる時間は、15：00から翌日の11：00までとします。
2. 当ホテルは、前項の規定にかかわらず、同項に定める時間外の客室の使用に応じることがあります。この場合には、次に掲げる追加料金を申し受けます。

客室タイプ	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
ツイン	1,000	2,000	4,000	一泊料金	同左	同左
ファミリー	1,500	2,500	4,500	一泊料金	同左	同左

(諸税等を含む)

#### 第 10 条 (利用規制の遵守)

1. 宿泊客においては、当ホテルが定めた客室内に備え置いた利用規則に従って頂きます。

#### 第 11 条 (営業時間)

1. 当ホテルの主な施設等の営業時間は各所に掲示、客室内のサービスガイド等でご案内致します。
2. 前項の時間は、必要やむを得ない場合には臨時に変更することがあります。  
その場合には、適正な方法をもってお知らせします。

#### 第 12 条 (料金の支払い)

1. 宿泊客が支払うべき宿泊料金等の内訳およびその算定方法は、別表第 1 に掲げるところによります。
2. 前項の宿泊料金等の支払いは、通過または当ホテルが認めたクレジットカード等これに代わる方法により、宿泊客の到着の際または当ホテルが請求した時、フロントにおいて行って頂きます。
3. 当ホテルが宿泊客に客室を提供したにも関わらず、宿泊客が任意に宿泊しなかった場合においても、宿泊料金は申し受けます。

#### 第 13 条 (当ホテルの責任)

1. 当ホテルは宿泊約款およびこれに関連する契約の履行に当たり、またはそれらの不履行により宿泊客に損害を与えたときは、その損害を賠償します。但し、それが当ホテルの責めに帰すべき事由によるものでない時は、この限りではありません。
2. 当ホテルは、消防機関から消防法令適合を受けておりますが、万一の火災等に対処する為、旅館賠償責任保険に加入しております。

#### 第 14 条 (契約した客室の提供ができないときの取扱い)

1. 当ホテルは、宿泊客に契約した客室を止むを得ない理由で提供できない時は、出来る限り同一条件による他の宿泊施設を斡旋するものとします。

#### 第 15 条 (寄託物等の取扱い)

1. 宿泊客がフロントにお預けになった物品又は現金並びに貴重品について、紛失、破損等の損害が生じた時は、それが不可抗力である場合を除き、当ホテルはその損害を補償します。但し、現金及び貴重品については、当ホテルがその種類及び価額の明告を求めた場合であって、宿泊客がそれを行わなかった時は、当ホテルは 5 万円を限度として、その損害を賠償します。
2. 宿泊客が、当ホテル内にお持込になった物品又は現金並びに貴重品であって、尚且つフロントにお預けにならなかった物については、当ホテルの故意または過失により紛失、破損等の損害が生じたときに限り、当ホテルはその損害を賠償します。但し、宿泊客から予め種類及び価額の明告のなかったものについては、5 万円を限度として当ホテルはその損害を賠償します。

#### 第 16 条 (宿泊客の手荷物または携帯品の保管)

1. 宿泊客の手荷物が、宿泊に先立って当ホテルに到着した場合は、当ホテルが了解した時に限り、責任をもって保管し宿泊客がチェックインする際にお渡しします。  
事前連絡なき場合は、保管できかねる場合もあります。
2. 宿泊客がチェックアウトされたのち、宿泊客の手荷物または携帯品が当ホテルに置き忘れられている場合において、その所有者からの連絡、指示により対処することとし、その他の処置については当ホテルの取扱い基準に基づくものといたします。  
ただし飲食物・たばこ・雑誌等は即日処分いたします。  
お忘れ物の発送費用につきましては、お客様のご負担とさせていただきます。

第 17 条（駐車 の 責任）

1. 宿泊客が当ホテルの駐車場をご利用になる場合、車両のキーの寄託の如何に関わらず、当ホテルは場所をお貸しするものであって、車両の管理責任を負うものではありません。ただし、駐車場の管理にあたり、当ホテルの故意又は過失によって損害を与えた時は、その賠償の責めに任じます。

第 18 条（宿泊客の責任）

1. 宿泊客の故意または過失により、当ホテルが損害を被ったときは、当ホテルに対してその損害を賠償して頂きます。  
指定された喫煙場所以外の喫煙については、  
損害賠償金を上限 15 万円までとしお支払い頂く場合がございます。

作成 平成 28 年 4 月 4 日  
改定 令和 4 年 1 月 7 日

別表第 1（宿泊料金等の算出方法）

		内訳
宿泊客が支払うべき総額	宿泊料金	①基本宿泊料（室料+朝食等の飲食料） ②サービス料（①×10%） ③消費税
	追加料金	④追加飲食料およびその他利用料金 ⑤サービス料（④×10%） ⑥消費税

- 備考 1. 税法が改正された場合は、その改正された規定によるものとします。  
2. 子供料金は小学生以下に適用し、大人に準じる食事と寝具などを提供したときは大人料金の 80%を頂きます。但し、寝具及び食事を提供しない幼児（5 歳以下）については無料とします。

別表第 2（違約金）

		契約解除の通知を受けた日				
		不泊	当日	前日	2 日前	5 日前
一般	14 名まで	100%	100%	80%	50%	30%
団体	15～99 名まで	100%	100%	80%	50%	30%
	100 名以上	100%	100%	80%	50%	30%

- 備考 1. %は、宿泊料金に対する違約金の比率です。  
2. 契約日数が短縮した場合は、その短縮日数に関わらず、1 日分（初日）の違約金を徴収致します。  
3. 団体客（15 名以上）の一部について契約の解除があった場合、宿泊の 10 日前（その日より後に申込をお引き受けした場合にはそのお引き受けした日）における宿泊人数の 10%（端数が出た場合は切り上げ。）にあたる人数については、違約金は頂きません。